

氏 名：上田 貴子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第170号
学位授与年月日：2019年3月9日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 井部 俊子（井部看護管理研究所・名誉教授）
副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）

論文題目：新任看護管理者の役割移行モデルの構築

博士論文審査結果

新任の看護管理者が新しい役割への移行に伴う葛藤やストレスに適切に対応し、スムーズに管理者役割を獲得するための仕組みづくりが必要とされている。

そこで本研究は、新任の看護管理者の適切な役割遂行に関連する要因を明らかにすることを目的とした。研究方法は、全国の病院に勤務する新任看護師長 935 名を対象とした自記式質問紙調査であった。分析の結果、病院における支援的な組織特性や、前任者・上司・家族などからの多様なサポート、管理者になるための事前の研修などがあるほど、看護管理の知識活用度や実践力が高くなっていった。また、役割遂行力が高い管理者ほど役割の移行が完了したと判断しない傾向があり、目標水準を高く設定し過ぎることが、その部署内で過大な要求が求められる要因となる可能性が示された。逆に役割遂行力が低い管理者ほど役割移行が完了したと判断しやすいこともあり、新任管理者に対しては適切な指標とその目標水準を設定し支援することが課題として指摘できた。

審査では、結果の構成が分析手法とその結果に終始し、研究の目的が不明瞭になっている点が最も大きな修正点として指摘された。そのため、論文全体にストーリーがなく、分析結果の羅列に終始している点、論文全体の構成に問題があり、仮説検証の論述、結果の解釈が不十分であることで、考察が十分になされていない点が修正点とされた。

これらを検討し修正が確認され、本研究は、新任の看護管理者の抱える問題点を役割移行の視点から捉えている点に独創性があり、役割遂行上の困難を抱える看護職者への支援策を講じる上で有用な結果を生み出している点が評価された。従来は、新任の看護管理者自身の認識を拠り所とする質的データが多い中で、量的データで捉えることで新任の管理者全体が持つ課題と支援方法をつかもうとしているところに新規性が認められた。新たに管理者役割を担う看護師のための役割移行のための準備教育への貢献が期待される点も評価の

ポイントであった。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。